

鹿児島県奄美諸島におけるイネ近縁属の探索・収集

安東郁男¹⁾・平澤秀雄²⁾

- 1) 農業研究センター・作物開発部・稲育種研究室
- 2) 農業研究センター・作物開発部・稲育種法研究室

Exploration for Rice Related Genera on Amami Islands, Kagoshima Prefecture

Ikuo ANDO¹⁾ and Hideo HIRASAWA²⁾

- 1) *Laboratory of Rice Breeding.*
- 2) *Laboratory of Rice Breeding Technology, Department of Crop Breeding,
National Agriculture Research Center, Tsukuba, Ibaraki 305, Japan*

Summary

An exploration for collecting Rice related genera on Amami Islands, Kagoshima Prefecture, was conducted from March 19 to 24, 1995. A total of seven samples including two of *Leersia* and five of *Zizania* were collected during the exploration. The distribution of the *Leersia* and *Zizania* growing area was quite limited. They were expected to disappear near the future.

KEY WORDS : *Leersia*, *zizania*, Amami Islands, Kagoshima Prefecture,

1. 目的

日本には *Oryza* 属以下の近縁種の自生は報告されていないが、*Oryzae* 連の *Leersia* 属 (エゾノサヤヌカグサ, サヤヌカグサ, アシカキ) や *Zizania* 属 (マコモ), *Chikusichloa* 属 (ツクシガヤ) の種が自生する。これらを探索・収集し、イネに新しい形質を付与する遺伝資源としての利用に備える。

これまでは本州を中心に行ってきたが、一昨年は沖縄諸島、昨年は種子島・屋久島において探索・収集を行った。沖縄諸島では、水田周辺や休耕田にアシカキが広く分布しており、マコモの栽培地もかなりあったが、種子島・屋久島ではそれらの草種は全く採集されないなど、両者の状況はかなり異なっていた。そこで今回は、その中間に位置する奄美諸島を探索することとした。

2. 経過

探索は1995年3月19日～3月24日にかけて行った。飛行機や船で島を移動しながら各島ほぼ1日ずつの日程でレンタカーを利用して探索を行った。与論島、沖永良部島、喜界島には水田が少なく、農家を訪ねて聞き取りしながらほとんど全ての水田地帯を回った。また徳之島では鹿児島農試徳之島支場、奄美大島では、鹿児島県名瀬農業改良普及所と大和村産業課から情報提供を受けて調査地点を絞った。

採集した株については、すべて農研センター稲育種法研究室の温室において維持している。

3. 収集結果

収集地点を Fig. 1 に、収集された草種を Table 1 に示す。

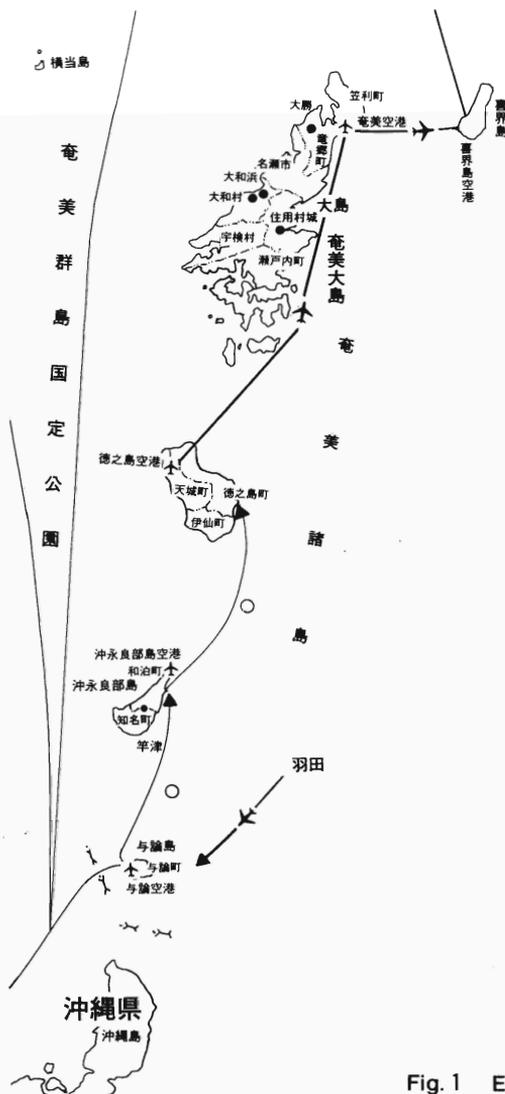


Fig. 1 Exploration route and collection sites
探索ルートと主な採集地点

Table 1 *Oryza* related genera collected in Amami Islands, Kagoshima Prefecture.
鹿児島県奄美諸島で採集された稲近縁属

収集番号	属名・種名	収集地点
95A-1	<i>Leersia</i> (アシカキ)	沖永良部島知名町竿津 バス停そば
-2	<i>Leersia</i> (アシカキ)	沖永良部島知名町竿津 やや山手
-3	<i>Zizania</i> (マコモ)	奄美大島 大和村市役所そばの栽培田
-4	<i>Zizania</i> (マコモ)	奄美大島 大和村マコモ農園跡
-5	<i>Zizania</i> (マコモ)	奄美大島 住用村城(ぐすく)マコモ休耕田
-6	<i>Zizania</i> (マコモ)	奄美大島 龍郷町大勝小学校そば栽培田
-7	<i>Zizania</i> (マコモ)	奄美大島 龍郷町大勝休耕田

1) 与論島

水稻からさとうきびへの転作がかなり進んでおり、水田はほとんどなく、あっても畑地との転換が激しいため常時水田状態にあるような圃場はごく限られていた。面積が小さいため、ほとんど島全体を回ったが、結局採集はできなかった。島でも数少ない水稻栽培農家といわれる田畑氏に情報提供を依頼して島を後にした。

2) 沖永良部島

与論島と状況は類似していた。農家や農協で聞き取り調査をしながら、島を回った。わずかに残る水田には水稻ではなく田いもが作付けされていた。それでも知名町竿津のごく小さな休耕田でかなり奇跡的にアシカキの群落を見つけることができ、2箇所ですべて採集を行った。

3) 徳之島

かなり大きな島なので、あらかじめ鹿児島農試徳之島支場において探索地点のアドバイスをを受け、古くからの水田地帯を中心に探索を行った。前記二島と同様さとうきびへの転作が進んでいたが、かなりの面積の水田や休耕田があった。しかし、イネの近縁属を見つけることはできなかった。

4) 奄美大島

名瀬農業改良普及所の情報に基づき、各地のマコモ栽培圃場(跡地含む)で採集を行った。また各地にかなりの面積の水田や休耕田が存在しており、アシカキ等の探索を試みたが、見つけることはできなかった。

5) 喜界島

水田はほとんど無く、小さな田いも栽培地帯で探索を行ったが、採集はできなかった。

4. 所感

各島とも水田や休耕田では他の草種が優占しており、アシカキ等の近縁属はほとんど見つけることはできなかった。南西諸島の石垣島や西表島の休耕田では、決まってアシカキが大きな群落を形成していたのとは対象的であった。アシカキを採集できたの沖永良部島だけで

あった。道ばたのごく小さな休耕田であったので、近い将来消失する可能性が高い。なぜそこにだけ存在していたのかわからない。今後奄美諸島でアシカキを採集するのは、極めて困難であると思われた。マコモは奄美大島でのみ栽培されていた。しかし栽培を放棄された圃場も多く、消失が懸念された。

5. 謝辞

レンタカーによる探索となったため、指名運転手として農研センター業務2科宮本章氏、業務1科坂本勝美氏に同行してもらった。連日、長時間の運転と探索をこなしていただき、深く感謝したい。

また各島とも急な協力依頼をしたにもかかわらず、農家や公的機関の職員の方々に大変親切にいただいた。ことに後日連絡までいただいた与論島の農家の田畑吉一氏、調査地点を絞るのに貴重なご助言をいただいた鹿児島農試徳之島支場の深田健一郎支場長、名瀬農業改良普及所の江田耕三所長、探索地点の案内から収集までお手伝いいただいた大和村産業課農政係長大山綱治氏に心から感謝いたします。

6. 参考文献

- 1) 平澤ら(1993) サヤヌカグサ属 (*Leersia*) の収集とアイソザイムによる分類. 育雑 43(別2) : 184